

令和4年度第二回当別町新庁舎建設検討委員会報告書

- 1 日 時 令和4年8月9日（火） 10:00～11:10
- 2 場 所 役場第二庁舎2階会議室
- 3 出席者
(出席委員) 高橋委員長、和田副委員長、川村委員、下段委員、石田委員、
松岡委員、袴田委員、小貫委員、今堀委員、古城委員
(町及び事務局)
【事務局】 乗木企画部参与、高田事業推進課長
事業推進課 坪井主幹、中鉢主任、山手主事
- 4 傍聴者 2名
- 5 会議概要
開会后、次第により、次のとおり委員会を取り進めた。
 - ・委員長挨拶
 - ・議 事
事務局より「①令和4年度第一回新庁舎建設検討委員会について②防災に関する機能の規模について③ICTに関する機能について④庁舎の規模について⑤検討スケジュールについて」を資料に基づき説明した。
追加の参考資料として「①デジタル技術を活用した庁舎機能、施設の事例集②オンライン配信について」を配布した。
 - ・質 疑
委 員：役場の新庁舎の機能について、農業委員会は新庁舎に含められているのか考え方をお聞きしたい。
事 務 局：農業委員会については新庁舎の中に含めた計算をしております。
委 員 長：資料の説明の中で、さらなる規模のコンパクト化を考えた分散化といった説明がありましたが、委員の中で複数の施設の参考となる意見等があれば、発言をお願いします。
委 員：前回の委員会の意見を盛り込んだ上で新しい提案をしていただき、特に常時稼働する部分ではない倉庫などを分散化することで、費用を削減するという発想は素晴らしいアイデアだと思う。大学の場合は、当別地区とあいの里地区、札幌駅前の3つキャンパスを持ち、コロナ以前は離れていることで不便だったが、コロナ発生後はオンライン化が急速に進み、逆に便利になっている。書庫や倉庫についても、将来的にデジタル化が進むことで庁舎の文書類の面積が減った場合、分散化しておくことで面積を縮小していける。
委 員 長：他に皆様から今ご説明いただいた件について、質問ございませんか。

委員:はじめに、防災の観点より当別は雪災害に対しての側面が強いと思っており、その点からアメダスの設置については考えていないのか。例えば、大雪の傾向が岩見沢や江別などとは若干違うところがあるため、そのような面から活用できればと思う。基幹産業の農業という面からも、アメダスの設置をこの機会に検討するのも良いのではないか。ただ予算的な部分もあると思うので、まずは意見ということで述べさせていただく。

次に、エネルギーの見える化について5ページ目にあるが、総合体育館に設置のエネルギーの見える化を直接見ている人は少ないと思うので、それはホームページなどで周知し、その分の費用を混雑情報や広報などがわかる設備に使用してはどうか。

面積削減の部分では、78.2万円という㎡単価で計算しているが、建設費も1.5倍ぐらいになっているという話を聞くと、実際は4.5億円ぐらいの削減効果があると思った。これは以前の単価計算っていうことでよろしいか。

事務局:良いです。

委員:11ページの議会の部分で、傍聴人がそもそも少ないのではないかとということ、今はオンライン配信がされており、デジタルサイネージを設置するのであれば、傍聴したい方はサテライト化した会議室で見ることができるため、傍聴席は無くてもいいと思う。建設コストを考えた時に、議場に傍聴席を設置した場合は一般的に天井高が必要だと思うので、その分の建設コストや無駄なスペースというのが生まれるのであれば、その分は削減してデジタルサイネージやオンライン配信で対応可能だと思う。議会で傍聴席がないのは珍しいのかもしれないが、会議室の耐震設備をしっかりと設けることができれば、コストを大きく下げることができると思う。

委員長:今の意見について、皆様から何かございませんか。

委員:今の話にもあったが、11ページの会議室のシェア化について、大学で新しい校舎のビルを建てたときには大きなフロアを作り、完全防音の中仕切りを設けることで、200人から40人までいろいろな目的に応じて部屋を利用できるように設計した。これは会議などで稼働率を上げていくのに良いアイデアだと思う。どういう利用の仕方をするか考えた上で、進めたほうが良いと思う。

委員長:ほかに皆様から何かございませんか。

委員:農業サイドからいえば、アメダスの情報はあるに越したことはない。ただ、アメダスは気象庁の関係になるため、この機会に整備してくださいというのはいいが、その辺の手順がどうなるのかというのは正直ある。

事務局:アメダスの件が出ましたので内容についてお知らせしたいと思います。アメダスの設置位置は基本的に気象庁で決めていて、市町村ごとにはではなく単純に地図を何メートル間隔のメッシュ状で分けた地点に設置するというもので、そ

の地点がたまたま近くの新篠津だったので当別地区にアメダスがないということです。その枠組みを変えると、また、スーパーアメダスといった違う仕組みも検討もされているようですが、枠組みを変える要望といったものはなかなか難しい現状です。ただ、今はAIも発達しているので、データの測定機械さえあれば、局所的な気象予測ができるのではないかと関係部署で詰めているところではあります。

委員長：今回の検討内容からすこし外れた部分ですが、みなさんが必要としている部分だと思えるので、担当部署にお伝えいただければと思います。ほかに何かございますか。

委員：8ページにある一般的な庁舎面積は1人当たり30㎡で、これはメーカーヒアリングや最新事例による平均的な数値と説明があり、事例として6、7件出ていた。視察や実際に見に行ったところはあるか。

事務局：当麻町は行ったことがあります。

委員：今の庁舎は3,000㎡であるが、人数的にかなり厳しいということで必要面積5,400㎡とかなり広くする予定。後程出てくる事業手法のときの資金調達や発注の仕方とか色々テクニカルな話も出てくるため、せっかく調べたのであれば、感覚ではなく実際に行った印象や立地条件、設備、住民からの印象や反響などは非常に参考になり、事前学習の意味でも必要なことだと思う。削減するところは分散することによって減らすことができるが、最終的な5,400㎡というのは基本構想からあまり離れていない数字。今後、住民説明会などで様々な意見も出てくると思うので、実際に行ってきたものをベースに加えたほうが、説得力にさらに厚みが出てくるのではないかと。

委員長：ちなみに今の発言のように建物ができたらよく視察を受けることがある。例えばとうべつ学園もこれから様々な視察が来ると思うが、どこかの役場庁舎がすごく機能的であるなどの情報はありますか。

事務局：前回は資料で提示させていただいたように、時期的に我々の役場と同じような時期に建ち、老朽化が進んでいるという庁舎が多いので、参考にできる部分はあると思います。

委員：実際に行くことはすごくいい意見だが、役場庁舎に役場職員の主観的な意見を入れると、逆にネガティブイメージも起きてしまうと思う。例えば僕ら検討委員会が行き、これくらいの規模がいいというのはいいが、働いている方からすると広いほうがいいと思うので、逆に30㎡というのが崩れてしまうのではないかと。

委員：良い悪いではなく、考え方を整理できると思う。

事務局：職員が実際に見てこれくらい必要ですという説明があれば、多少過多に見えたとしても良いということですか。

- 委員：私たちが行ってもいいが、おそらく費用もないと思うので事務局での写真でも何でも良い。今の時代は調べれば何でも出てくるが、この5,000何㎡ってどれくらいかというイメージが湧かない。とうべつ学園が9,000㎡くらいだとして、あの半分くらいのイメージでいいのかだとか、そうなるとここに建つとどんな感じになるのかとか、色々なことが出てくると思う。
- 委員：手間かもしれないが、実感が湧かない委員もいるので、規模がイメージできるように近隣の近年立て替えられた庁舎を一度見てきてはどうか。
- 委員長：レイアウトや導線など行ってわかる情報もある。
- 委員：せっかく7か所調べているので、この一覧表に資金調達先だとか、事業手法だとか入れることで、イメージを共有できる。みんなで行かなくても2、3人行けば十分である。
- 委員長：そういう意見もあるので、ご検討頂くということではよろしいか。
- 事務局：はい。
- 委員：建築費の単価についての質問だが、償却するものとして電子機器や建物だけではなく、外構工事を含め、すべて含まれているのか。
- 事務局：㎡あたり78.2万円の単価は、そこまで細かい部分で積み上げたものではなく、いろいろな市町村の一番高いところを見えています。ただ、先ほど委員さんから話もありましたが、今は建築費がものすごい上がっている状況です。
- 委員：㎡あたり78.2万円で総事業費約36億円と、おおまかな感じで出てきている。委員さんが建物の中のIT関係の機器はいくらとかのイメージが湧かないまま進んでいいのか。
- 事務局：そういった金額の部分については、前回もそういった意見があり、早急に提示したいと思っております。そのために、ある程度規模というところを決定していきたいと考えています。
- 委員：農業経営者としては固定資産を取得すると、償却年限は何年といった償還計画は必要になる。そのようなものは町民に対して説明しなければならないと思う。当然それは計画に入っていると思うが、このメンバーもそれはある程度の時期には知っておかなければならない。
- 委員：視察に行くのであれば、どこになにがあって、どれくらいの費用案分で庁舎を建てていますといった資料があると良いと思う。
- 委員長：今あった意見について、そこまで詳細な情報ではなくてもいいが、ある程度お示しいただければ、イメージが湧きやすいと思うのでお願いしたい。ほか何かありますか。
- 委員：防災に関する機能について質問する。庁舎機能の中で防災は重要な機能だと考えていて、災害があった際に障害がある方や高齢の方など、恒常的な電気の確保が命に直結するような町民の方々もいる中で、現在の総合保健福祉センタ

一のみではなかなか不十分な部分もあると思っており、この機能に注視している。資料の3ページで、必要面積の部分から経費削減の視点でのメリット、デメリットがあるが、屋外や屋上にこういった機能、設備を設置することについて防災上のメリット、デメリットがあれば、それも今後提示してもらえると判断基準になると思うので、今わかる範囲での検討状況を教えていただきたい。

事務局：今回は面積の部分の話だけで提示させていただいたので、実際にそこに置いて削減した時にどういったところがリスクとしてありえるかということと思います。3ページの表を見ながら説明します。耐震、無停電装置そのものについては庁舎に組み込んでいる部分ですので、特にはないです。発電機、備蓄燃料を屋上に設置した場合、当然ながら屋上は屋外の扱いになるので、災害の種類によってはその機材が使えなくなる可能性は屋内に置くよりも高くなるケースもあります。倉庫関係ですが、屋外に設置した場合、実は倉庫の中に入れるものに制約が出てきます。ゆとりの近くにダンボールベットを置くために設置した防災倉庫があります。そこでは、段ボールは長い間置いておくとダメになるので、乾燥させるために空調をいれなければならず、専用の装置がついています。従ってそういったものを動かす必要がある倉庫であれば、災害時には、停電リスクといったところが出てこようかと思います。行政無線に関しては、特にここに関してはデメリット、メリットといった部分はないかと思います。受水槽についても、屋上に設置することによって、その水質の部分であるとかに影響はないと思います。貯留槽については、地下に設置した場合地震に弱いということにはなろうかと思います。床レベルのかき上げについては、これは費用との兼ね合いになってくるので、面積自体は減らしたとしても、この床上げ自体に係るコストがかかることとなります。口頭で大変申し訳ないですが、後ほど内容を整理した資料を提示したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

委員長：ほかに何かございますか。無ければ、本日は主に機能や規模についての審議を行い、防災機能は方法によっては面積を増やすことなく設置が可能となること、ICTの技術を活用すると場所にとらわれずに住民サービスを受けられること、基本構想で示している規模は過大ではないが、より適正な規模とする工夫として機能のシェア化や分散化していくことも選択肢の一つであることを確認しました。

皆様には、引き続き審議いただきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

・その他

①検討委員会のオンライン配信について

委員会の様子をオンライン配信してはどうかという声があったことから、事務局よりオンライン配信について事例などを紹介した。

(主な意見)

委員：このような委員会は映像で流すべきではないと思う。議事録で残すことや、傍聴するのも全然構わないと思うが、発言内容を生中継でそのまま流したり、後で残るとするのは、色々な間違いがあったり、トラブルの元になってしまうのではないかと思う。

委員：オンライン配信の内容は著作権の問題や個人情報の問題もあり、取り扱いには慎重にした方がいい。委員会の内容を公開することに反対ではないが、誤解を招くような言葉が一気に広がる可能性があり、各委員が言いたいことを言えなくなることもある。そういう意味でメリットとデメリットを考えた時に、オンラインという怖さのほうが気になる。

委員：公平かつ冷静に判断して発言しようとは思いますが、色々な思惑や思いの話が出る可能性はあるかもしれない。

委員長：肯定的な意見が無いので、オンライン配信については委員会としては時期尚早として、委員の機運が高まった段階で再度検討します。

②事務局より、次回の委員会は10月初旬頃に開催する旨連絡した。

以上